

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番73	福山市立山南小学校
最終更新日		2022年(令和4年)10月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力	主体的に学び合う力
<ul style="list-style-type: none"> 至誠中学校区3校の教育活動が、校区全体に共有化され、地域と共に子どもを育てる環境を整備する。 学校に登校できにくい児童・生徒を、学校だけでなく地域全体で見守り、支える組織づくりを行う。 主体的な学びづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。 基礎学力の定着や主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。 	21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども ○授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校の授業公開を通して協議し、「子ども主体の学びづくり」の充実を目指す。 ○小・中学生との交流：小中学校合同行事(挨拶運動・絵本の読み聞かせ等)の開催

III 自校

ミッション 社会で市民として生きていくための教育 どんな社会(=多様化する予測不能な社会)でも自分らしく生きるための教育 いのちを守る教育 <u>安心・安全</u>

学校目標 自分らしく生きる ~Be Happy~

現状 <子ども主体の学び> 児童の肯定的評価「自分の考えをもって学習している」・・・78.4% 「授業で考える(考え合う)ことがおもしろい」・・・80.4% ・「子ども主体の学び」について、毎月のリフレクションを基に対話を行い、イメージ共有化や実践の交流を行ってきている。 ・算数科や理科、社会科、体育科で、自由進度学習に取組んでいる。 <授業> ・毎日又は教科のリフレクションの時間をとり、子ども自身で自分の成長を感じることができている。 ・単元計画の配布や自己の課題に応じて学習を進めるなど、学習方法を選択し、実行できるよう工夫している。 ・子どもたちも問いを持つことを意識したり、解決しようとする気持ちができたりして学習に意欲的になってきている。 ・タブレットの活用が広まることで、子どもたちの学習の幅が広がっている。
--

育成する力	「主体的に問いを立てて、他者と協働しながら解決していく力」		
	1 自分から進んで取組む力(主体性) 2 友達と協力する力(協働性) 3 自分らしく表現する力(創造性) 4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)		
めざす子ども像	1・2年	3・4年	5・6年
	自力解決や協働解決の素地が育っている	多様な主体的・協働的な活動ができる	自己決定を含む主体的・協働的な活動ができる
	理由をつけて自己の考えを表現できる	自己の考えを活動を伴って検証できる。リフレクション	リフレクションを通して自己の考えを発展できる
	①目標 自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習する。	②積極性 グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出す。	③実行 グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表する。
2 友達と協力する力(協働性)	④対話 自分の意見やアイディアを友達に納得してもらえるように説明し合う。	⑤協力 グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取組む。	⑥練り上げ 友達の良いところやアドバイスを生かし合って、より良い考えや作品を作る。
3 自分らしく表現する力(創造性)	⑦発想 新しいアイディアや工夫はないかと、いつも自分で考える。	⑧個性 自分らしい考えを生かして文章を書いたり発表したりする。	⑨課題発見 「なぜだろう?」「どうしてかな?」といったも考える。
4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)	⑩思いやり 相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。	⑪公共心 公共の利益のことを考えようとする。	⑫自己有用感 人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じている。
研究	テーマ	子ども主体の学びづくり	
	内容等	主体的に問いを立てる・児童が自らの課題を見つける 他者と協働しながら解決していく・人とのかわりあいの中で、自分の思いや考えを持つ ○自ら問いを立てる場がある。 ○協働し解決する場がある。 ○自分らしく表現する場がある。 ○みんなのことを考えみんなのために働く場がある。	
めざす授業の姿			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山南小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る 取組状況	加 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	加 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	加 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	改善方策
3	主体的に問いを立て、解決する授業の実施	★ 一部変更	リフレクション、山南ファイルにより学びを価値づけ、基礎基本の学力の定着を図る。 授業づくりについて対話を行い、子ども主体の学びに向けて取組む。	視点を示すなどのリフレクションの書き方の工夫。 家庭学習の工夫を行う。 山南ファイルを活用して、自分の目標の設定や学びの伸びを共有。	・標準学力テスト(国語、算数)で正答率が40%未満の児童を10%以下にする。 ・児童アンケート「考える(考え合う)ことがおもしろい」の項目で肯定的評価を85%以上にする。 ・教材や導入の工夫からどのような協働的な学びになったのかをリフレクションにまとめ、交流を行う。	□リフレクションの視点を各教室に掲示し、振り返りやすくなることのできた。 □レーダーチャートを用いて学習の振り返りをするので、自分についての力を捉えやすくなることのできた。 □児童アンケート「考えることがおもしろい」の項目で肯定的評価は89.1%である。 □クラスでの取組をまとめたり、交流したりして協働的な学びについて研修した。	3	3	・毎時間のリフレクションを大切に、次の時間につなげる。 ・リフレクションを生かして目標を設定させる。 ・今後も問いをもたせるために、導入の工夫や協働的な活動を授業の中に仕組む。 ・視点を絞って実践交流をすることで子ども主体の授業づくりを目指す。				
3	自己認識、自己肯定感の育成	★ 継続	自分(心や体、好きなこと等)を知り、友達のよさ、違いを認める。 自分らしさを見つける山南クラブの実施。 生活振り返り週間や体力向上の取組により、自己の心や体を知る。	他者意識を育む山南の花の取組。 児童主体の学校行事等の実施。 自分らしさを見つける山南クラブの実施。 生活振り返り週間や体力向上の取組により、自己の心や体を知る。	・1人1か月に1つ山南の花を見つける。 ・児童アンケートの自己肯定感・有用感に関する④「自分に良いところがある」⑤「人の役に立ててうれしい」の2項目で肯定的評価を85%以上にする。 ・運動やスポーツが好き、体育が楽しいの児童アンケートで肯定的評価を前年度(83%)以上にする。	□児童アンケートでの肯定的評価は④74.3%、⑤92.1%だった。 □1人1か月に1つ以上山南の花を見つけることのできた。 □運動やスポーツが好き、体育が楽しいの児童アンケートで肯定的評価は97%であった。	3	3	・引き続き児童会活動として山南の花見つけに取組む。 ・行事後に学年間で振り返りを行い、ヘア学年のいいところを見つけ価値づけを行う。 ・児童会による全校遊びや、保健体育委員会のなわとび発表会など楽しく運動できる機会を設定する。				
2	教育公務員としての自覚、効率的な業務の推進	★ 一部変更	年間を通して、計画的に研修、自己研鑽、保護者・地域への情報発信を行う。	定時退校日の徹底とスケジュール管理をし、見通しをもって職務を遂行。 学校での学びの様子を学校HPや学校だより等で発信。	・1ヶ月あたりの時間外勤務4.5時間以内を超える教職員を0にする。 ・仕事に対する肯定的評価を90%以上にする。 ・学校だより、学年だより等で月に1回以上、児童の様子を発信する。	□1ヶ月あたりの時間外勤務4.5時間以内を超える教職員は0である。 □仕事に対する肯定的評価は85.7%である。 □学校だより、学年だより等で月に1回以上、児童の様子を発信することができている。情報発信を行うと共に、地域の方と学習する機会も増えている。	4	3	・今後も、週予定を明確に示し、勤務時間を意識し、見直しをもって計画的に職務を遂行していく。また、教職員との対話を通して、働きやすい職場につなげていく。 ・児童の様子を発信していくことを通して、児童の成長を共有し、仕事に対するやりがいの向上につなげていく。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。